

発行者： 社団法人宮陵会（ 神奈川県立大学校友会 ）三浦半島支部 企画・広報委員会

事務局： 鎌倉市津西1-31-15 TEL0467-32-4957

## 箱根駅伝に17年連続40回出場

～42校出場の予選会を6位で通過～

第84回箱根駅伝予選会は10月20日、午前8時東京・立川市の陸上自衛隊立川駐屯地をスタートし、国営昭和記念公園に至る20kmコースに関東学連所属の42校、487人の選手が出場し開催された。

各校10人の合計タイムで争う総合成績で中央学院大学が10時間10分49秒で1位、2位は帝京大、神大は10時間13分54秒で6位に入り、17年連続、40回出場の切符を手にした。なお1月2日、3日に行われる本大会には、前回の本戦で10位以内に入ったシード校、予選会を勝ち抜いた9校、今回の予選会で落選したチームの上位選手で構成する関東学連選抜を加えた20チームで争われる。



スタート地点。5kmを力走する神大選手集団

〔写真提供 宮陵会西多摩支部支部長 稲木英生氏〕

15km通過時点の合計タイムは9位、関東インカレポイントを換算すると通過圏外の10番手。しかし残り5kmこそ、神奈川大の本領発揮の場だった。エースの森本卓司だけはハイペースで先行したが、残りの選手は予定のペースを死守。ライバル校に失速する選手が続出するなか、神奈川大の大きな一団がぐいぐいと順位を上げていった。

まず森本が60分37秒（22位）でゴール。その後、61分07秒（40位）でチーム2位の石田将教が入ると、それから怒涛のゴールラッシュとなった。チーム9位で61分38秒（84位）、やや遅れたチーム10位も62分06秒。チームトップが22位というのは通過校では最低だったが、10人目のゴールは中央学院大に続き2番目である。

森脇佑紀、豊田崇らエースが卒業。大後栄治監督は「正直、もう1回箱根を走れるチームなのか疑問でした」と、新チームに移行した当時の心境を明かす。根底から力をつける作業をコツコツと積み上げていくしかない。しかし、そんな途方もない作業を、雑草集団はやり遂げた。8月の走行距離はほとんどの選手が1000kmをこなし、9月でさえ900km超。

前年より1位劣る6位通過だが、総合タイムは前年を43秒上回る。大後監督は「（本戦後の）10ヵ月でよくやってくれたと思います。これ以上のものは出せません」と選手をねぎらった。

（月刊陸上競技12月号から転載）



終了後、現役学生・OBが輪になり選手にエール声援

## 第84回箱根駅伝出場チーム

### ■シード校

順天堂大学 日本大学 東海大学 日本体育大学 東洋大学 早稲田大学 駒澤大学 中央大学 専修大学 亜細亜大学

### ■予選会通過校

中央学院大学 帝京大学 城西大学 山梨学院大学 大東文化大学 神奈川大学 国土館大学 東京農業大学 法政大学 ■関東学連選抜

### 神大出場選手の個人成績

○ 森本 卓司	2年	22位	60分37秒
○ 石田 将教	4年	40位	61分07秒
○ 染谷 和則	2年	50位	61分16秒
○ 的場 義真	3年	54位	61分20秒
○ 天野 峻	1年	60位	61分25秒
○ 三谷 泰之	3年	61位	61分25秒
○ 石原 洸	4年	65位	61分29秒
○ 森津 翔太	4年	71位	61分31秒
○ 斉藤 一也	3年	84位	61分38秒
○ 川上 晃弘	2年	113位	62分06秒

### シード権奪還めざせ駅伝チーム

～JR保土ヶ谷駅前で神大選手を応援しよう～

箱根駅伝予選会で出場権を獲得した母校神大駅伝チームを、JR保土ヶ谷駅前の沿道で応援いたします。

三浦半島支部の組織をあげての応援は、今年の1月2日、3日に続き2回目。保土ヶ谷駅前には、神奈川大学教職員・学生、宮陵会保土ヶ谷・旭支部、南区支部、三浦半島支部の卒業生の他神大駅伝ファンが結集する。三浦半島支部では6本のぼり旗を準備し、熱い声援を送ります。神奈川大学ののぼり旗を目標にお集まりください。

#### ( 応援ポイント )

◎ 往路 1月2日(水) 2区 JR保土ヶ谷駅東口  
円福寺前予定

トップ集団は、9時37分頃通過予定。のぼり旗を準備される方は8時30分、駅改札口に集合。保土ヶ谷駅前通過後、JR大磯駅前で4区選手を応援予定。

◎ 復路 1月3日(木) 9区 JR保土ヶ谷駅東口  
円福寺前予定

トップ集団は、11時45分頃通過予定。のぼり旗を準備される方は10時40分、駅改札口に集合。保土ヶ谷駅前通過後、東京・大手町で10区選手を応援。

### 新年会を横須賀市内ホテルで開催

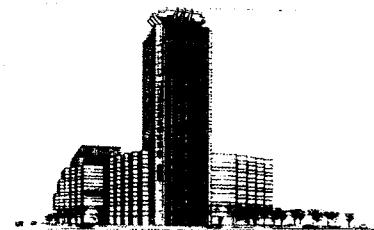
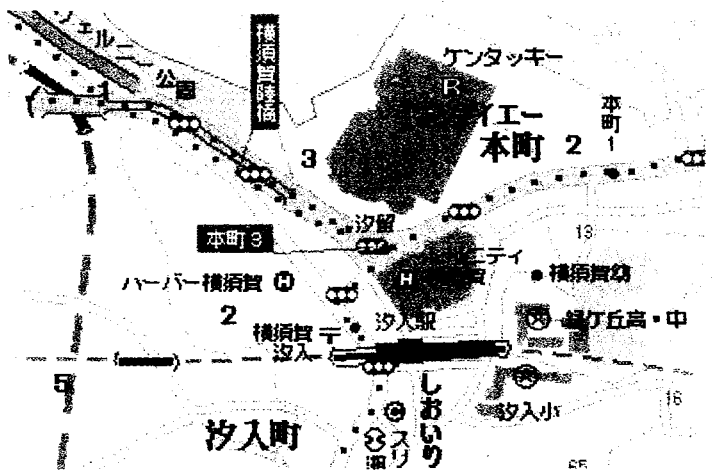
1月26日、会場はホテルトリニティ横須賀

本年1月20日、三浦半島支部発足後初めての新年会を横須賀市若松町の「鳥の巣」で行い、来賓を含め34名の卒業生が出席し親睦を深めることができました。

来年の新年会は、ご案内のとおり1月26日(土)午後6時(受付開始午後5時20分)から京急汐入駅前のホテルトリニティ横須賀4階宴会場「葉山」で開催いたします。(参加費は男性7,000円、女性5,000円。)参加の有無につきましては、同封の返信はがきにご記入のうえ12月28日までにご返送ください。

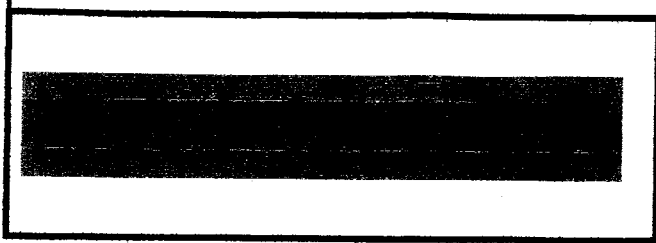
また勤務先の職場やお住まいの地域に卒業生がおられましたら支部役員までご連絡くださいますようお願いいたします。

#### [ 会場案内図 ]



ホテルトリニティ横須賀  
Hotel Trinity Yokosuka

3-27, Honcho, Yokosuka-shi, Kanagawa, 〒238-0041, JAPAN  
神奈川県横須賀市本町3丁目27番地 〒238-0041  
TEL: 046 (821) 1111 (代表) FAX: 046 (821) 1141



## 宮陵会設立70周年記念式典を開催

～来年5月、神大創立80周年迎える～



記念式典で宮陵会 狩野 七郎会長が挨拶

10月20日(土)午後2時、母校神奈川大学16号館セレストホールにおいて宮陵会設立70周年記念式典が開かれた。昭和12年3月、神奈川大学の前身である横浜専門学校同窓会設立総会が開催されてから今年が70年。学校法人神奈川大学は、来年創立80周年を迎える。

記念式典には学校法人神奈川大学理事長、神奈川大学学長、神奈川大学後援会会長、学校法人神奈川大学常務理事、神奈川大学副学長、事務局長の他、感謝表彰者、親子三代会員の特別感謝表彰者、学生課外活動で活躍した特別表彰者が招待された。なお式典の司会進行は、神奈川大学放送研究会外国語学部スペイン語学科2年の女子学生が担当した。

始めに神奈川大学混声合唱団クールアンジェと共に出席者全員起立し横浜専門学校校歌、神奈川大学校歌を斉唱した。

最初に主催者を代表して社団法人宮陵会狩野七郎会長が挨拶を行い「昭和12年横浜専門学校の同窓会が設立され70周年を迎えた。私は今年、会長2期目を仰せつかったが、70周年の節目にぶつかるとは考えてはいな

かった。考えてみれば非常に幸せなことと思う。ちなみに大学は、来年創立80周年を迎える。70年を考えると、昭和12年に支那事変が始まり戦争終結までの間に、多くの先輩同窓生が戦場で亡くなるなど不幸な時代であった。その後、宮陵会は50・60周年記念式典を開催した、諸先輩の並々ならぬご努力の結果により70周年を迎えられたと思います。

また最近の大学の置かれた環境変化(少子化社会の到来)により、大学は大変な時代を迎えた。今後、同窓会としてどう学校の繁栄に貢献できるか皆で考えていきたい。私達は偏差値を知らない時代を過ごした。学校、教学、同窓会の一つになり母校の繁栄・発展のために努力しなければならない。大学創立100周年まであとわずか。その時神大は良い学校だったな。卒業生はすごいね。と言われるよう皆で一緒に頑張っていこうではないか。」と述べられた。

続いて来賓の紹介があり、学校法人神奈川大学白井宏尚理事長、神奈川大学中島三千男学長よりご祝辞を頂いた。(要旨は次頁に掲載)。その後表彰に入り、感謝表彰六人、親子三代会員表彰三家族、特別表彰として、課外活動で優秀な成績を挙げられた学生三人と一団体に對し表彰が行われ記念式典は終了した。

第二部は記念講演会が行われた。講師は本学工学部教授田島和夫先生。演題は、「三相乳化技術」の開発により誕生した未来対応型、スーパーエマルジョン燃料ーで1時間ほど講演をされた。



1990年神奈川大学教授(理学博士)  
専門はコロイドおよび界面化学。  
日本学術会議化学研究連絡委員会委員、  
農芸・応用化学小委員会委員長、日本油  
化会会長などを歴任。

三相乳化技術は、田島教授により開発されたもので、この技術を活用し、広く社会に向けて実用化していけるよう、学校法人神奈川大学発ベンチャーとして「未来環境テクノロシー株式会社」が設立された。

三相乳化法で調整したスーパーエマルジョン燃料は環境に優しい燃料としてディーゼルエンジンの乗用車、トラック、バス、発電機、ボイラーなどで使用でき、排気ガス中の窒素酸化物、炭素微粒子、炭化水素などを著しく低減できる。そのうえ燃費も向上する。環境への影響が少ないために、将来交通機関、産業界、さらに船舶などへの活用が期待される。

記念講演会終了後、第三部として19号館ラックスホールで記念祝賀会が盛大に行われた。

### 宮陵会70周年記念式典来賓祝辞（要旨）

（学校法人神奈川大学 白井理事長）

宮陵会設立70周年おめでとうございます。大学は戦後の混乱期に存亡の危機にありましたが、来年80周年を迎える。現在の学生数は18,000人で総合大学に成長しました。

大学の現状を報告すると、大学間の厳しい競争に打ち勝つために、将来構想策定の委員会を設け詰めているところで、内容は来年5月15日に開催する80周年記念式典で発表します。80周年事業としては、創始者米田先生の伝記出版、記念公園建設。横浜、湘南ひらつかキャンパスの整備で、記念公園は米田先生の生誕地（愛媛県内子町）に作り内子町に寄贈します。本年11月17日に竣工式を行ない、翌18日、松山市で本学吹奏楽部による記念演奏会を開催します。キャンパスの整備は、横浜ではグラウンド、テニスコートの全面人工芝化等。湘南ひらつかは図書室拡充・学生ラウンジ等が入る3階建て新棟の建設で、80周年記念事業の資金は16億円、うち5億円は募金で賄う予定。募金をしていただいた方々は、記念式典に全員ご招待いたしますのでご協力お願いいたします。

大学を取り巻く環境は、少子化の影響から大変厳しく、すでに経営破綻している私立大学も見られる。神大は幸い3万人強の志願者を集めているが予断は許されない。学生に魅力ある教育内容拡充と教育施設整備が必要と思われます。

先般、工学部田島和夫教授が開発した「スーパー・エマルジョン燃料の開発、製造」。「三相乳化技術の研究、開発、実用化」のために学内に未来環境テクノロジー株式会社を設立した。国内・国外から問い合わせがあり、昨日松沢神奈川県知事が視察に来られた。地球温暖化対策に貢献できると期待している。

学生の課外活動は、数年来レベルアップし、アジアレベルで活躍する選手を多く輩出している。

駅伝も今後、サポートし強化して行きたい。

（神奈川大学 中島学長）

宮陵会設立70周年を迎え誠におめでとうございます。横浜専門学校同窓会が設立された、昭和12年は日中戦争が開始された年で戦中・戦後長い混乱と激動を乗り越え横浜専門学校、神奈川大学卒業生は17万人強と全国700ある大学のなかで堂々17番目におり、誇りある成長をしていること心よりお慶び申し上げます。

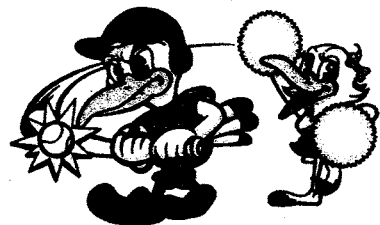
昨夜立川に行き、朝早く起き箱根駅伝予選会の応援に駆けつけました。学生・卒業生が約250人ほど応援にきておりました。地方に行くとき多くの卒業生から箱根駅伝を何とかして欲しいとの声を聞きます。箱根駅伝に強くなることは大学にとっても大事なことと感じました。箱根駅伝に出場でき本当にうれしく思います。

理事長から学事報告がありましたので、私から三点ほどお礼申し上げたい。

一つは、毎年神奈川大学後援会主催の父母懇談会が全国各地で開催されているが、必ず宮陵会支部役員、卒業生先輩が出席され、父母の前で話をしてくれることです。私も本年、徳島、香川、浜松、静岡、仙台、盛岡を訪問したが各地の父母は先輩の話を感銘をもって聞いていただいた。その節は大変お世話になりました。今後もよろしくお願いたします。

また今年の通常総会の席上、横浜専門学校学生戦没者についてお話をしたところ、亡くなった方々の情報を多数いただき感謝しております。

入試のことですが、志願者目標は3万3千人と話をしたが、入試センターの情報では文系はますますだが、理系は減少とのことであった。受験者増、大学も努力をしておりますが、宮陵会・卒業生のご支援、ご協力お願い申し上げます。



## 広島経済の再編に挑む神大卒業生

広島商工会議所新会頭 大田 哲哉氏

新広島球場、交通網整備、駅前再開発など、街づくりなどの問題が山積。これに加え「景気回復の実感がない」という地域中小企業の振興が課題の広島経済。広島市当局との関係も決して良好とはいえず、提言も空振りに終ることが多い。活動の実効性が問われるなか、11月1日就任した広島商工会議所の大田哲哉会頭（広島電鉄社長）に現状と変革を聞いた。

（11月16日「日本工業新聞」より）



おおた・てつや 昭和38年神奈川大学工学部卒。同年広島電鉄入社。常務、専務を経て平成8年社長。平成13年～16年広島経済同友会代表幹事。現在中国経済連合会副会長を兼務。広島県出身、66歳。

一課題はさまざまですが、優先順位は。

「中小企業活性化が一番だ。地域活性化には、中小企業の活性化が欠かせない。マツダの車のような工業製品から食料品までの全分野で地産地消を進めたい。地域のカネは地域で消費し、企業はそのカネでさらに新事業を興す好循環の経済システムを構築したい」

一具体的にはどう手を打ちますか。

「そこがこれからの課題だ。業界の活性化には県や国の支援が不可欠。支援を得るには『困った、困った』という抽象論でなく『何がなくて困っているか』分析し、支援する側の理解を得ることが大切。技術か販路か、それとも原価低減か。全業界で原因を究明し、ターゲットを絞って中国経済産業局の協力を得て支援策を練るというサイクルを確立したい。国も地域の自立を促しているから、具体的なビジョンと明確なゴールがあれば支援してくれる」

一広島駅周辺の再開発で、南北の一体的構想を提言しております。

「大事なのは広島駅周辺を面ととらえる考え方。今は北口が死んでいる状態。南口との行き来を簡単にして、北口に空港からの玄関口になるようなバスターミナルを整備する。そうして一体的に再開発をしなければいつまでも街としての潜在価値は上がらない。経済界もここはオフィス街、ここは飲食街といったエリアマネジメントの提案が必要だ」

一それには広島市との協調が求められます。

「理想は市と経済界が車の両輪になる仕組み。今は市の出した政策の追認か、異を唱えても空振りするかしか選択肢がない状態。市が政策を練る段階から協議できれば、もっとスムーズに経済界の意見を反映できる。そのためにトップ同士の意思疎通が大事。互いを理解しあい、責任をもって役割を果たすことで、信頼を積み重ねたい」

一広島経済同友会代表幹事時代、実行団体への変革に挑戦しました。

「同友会に比べ、商工会議所にはすでに人もいるし、金もある。あとは事業を具体化し、それを強烈に実行していただく。副会長、執行部はそれに見合ったスタッフにした。仕事を全て前向きにすれば流れは変わる」

## 記者の目

### 第一戦で尽力

広島電鉄社長、広島バス協会会長との兼務は「大変だが第一戦にいながら会頭をやることで、いい方に働くことの方が多い」とどこまでも前向き。

ここ数年、街づくりの方向性で対立を深めた市との関係を改善し、どこまで市と連携可能な組織づくりができるか。手腕が問われる。

（日本工業新聞広島・深江隆寿）

## 支部同好会通信

### 三浦半島支部ゴルフ会

#### 第4回オープンコンペを開催

11月15日(木)絶好の小春日和に恵まれ千葉・総丘カントリー倶楽部において、第4回オープンコンペが3組10名で行われました。今回は今年退官された陸上競技部前部長の植田先生を迎え、和やかに楽しみつつ、緊張感のなか競技は新ペリア方式で行い、優勝は隠しホールをしっかりと叩いた鈴木(46年法律)がネット72.6(グロス93)、準優勝に原氏(46年英語)ネット75.2(グロス98)、3位に植田先生がネット75.8(グロス95)で入賞した。

コンペ終了後、クラブハウスにて表彰式、懇親会を行い各々近況を報告した。(総丘カントリー倶楽部では勤務されている神大ゴルフ部OBの前田課長、所属プロの清水氏にお世話になりました。)

また今回は、東京湾フェリー勤務の田中氏(47年法律)のご好意により「かなや丸」のVIPルームを貸切り、モーニングコーヒーを頂きながら、和気あいあいの中、一路金谷へ40分の船旅を満喫した。



第4回オープンコンペ参加者全員で記念撮影

#### 〔古川支部長のコメント〕

産声を上げた「三浦半島支部」は現在会員が90名である。早期に200名到達を目指したい。それには若い世代の会員を増やし、支部の基盤拡充、活力のある組織にすべく努力したい。

なお新年会は平成20年1月26日(土)開催する予定との報告があった。

(記 鈴木 和夫)

ゴルフ会参加希望者は下記までご連絡ください。

連絡先：中川氏 携帯 090-9003-2499  
自宅 046-875-4360

メール nakaroku@jcom.home.ne  
〒240-0111 葉山町一色1087

## 役員会開催状況の報告

#### 〔平成19年度第2回役員会〕

開催日時 平成19年9月15日(土)  
13時

場 所 横須賀市産業プラザ 第2会議室

参加人員 10名

議 題

- (1) 支部会員増強対策の検討について
- (2) 異業種交流会について
- (3) 次回役員会の日時・場所について

#### (報告事項)

1. 宮陵会本部からの卒業生情報を活用し、新規会員を募る。また神大創立80周年に鑑み、本部と相談し、横須賀市内で記念イベントを計画する。
2. 工場見学会、会員による講演会を検討する。
3. 12月15日(土)13時、メルシャン鎌倉研修センターで役員会を開催する。

## 会員からの短信



会員の皆様からの原稿を募集しております。学生時代の思い出、趣味、旅行記、仕事のこと等テーマは自由です。次号は来年3月頃に発行予定です。

字数は1,600字以内でお願いいたします。

(送付先)

〒239-0835

横須賀市佐原3-21-33 鈴木 稔

メール ne2tf6@bma.biglobe.ne.jp

## 漁師 昨今

小池 邦夫



確か終戦直後のことだったと思う。もう艦載機に機銃掃射される恐れもなくなったので磯に出てみると、潮溜まりに鰯の群れが取り残されていて、手掴みで捕まえた。

戦争中は漁師の大半が徴兵され、漁などままたぬ日が続いたせい、魚影が濃くなったのだ。漁師達は早速お

かにあげてあった舟を整備し、網をつくろって沖に出た。相模湾沖の鯉の一本釣り、海岸から目と鼻の先での小舟による鱈網、海老網、小鰈釣り、根魚釣り、ガラス付の筒で海中を見ながら銚子で小魚、貝を突く「のぞき」漁、帆に「ならい」の風を捕らえての「手繰り」と呼ばれる底引き漁、それに早春の若布、ひじき採りなど豊漁が続いた。「のぞき」の小舟を揚げるのを手伝うと「おう、これ持って行きな」と海鼠の一、二杯をくれた。

戦後ラジオが普及して漁師も利用するようになった。台風の襲来の予報があると、こぞって舟を高みに揚げた。ある秋のこと漁師もポート屋も舟の陸揚げに大わらわだった。ところが私の祖父は「なあに、でーじょうぶだ。来やしねえー」の一点張り。父と私は説得を諦めた。結

果はいわゆる「望天測気」が正しかったのか、ただ一艘、浜辺に残された我が家の舟は無事だった。先日、甲斐羊子さんの句

老漁夫に掃燕の風の吹く日かな

を拝見して懐かしく思い出された。戦中戦後の漁師はねじり鉢巻きに紺の半纏、下帯一つで朝夕沖を眺めていたものだ。鯉舟の釣果は天候と潮を読んで「なぶら」と呼ばれる魚群を見つける船頭の腕にかかっていた。むかし、クマサンという名の名船頭は、鯉漁の行き帰りにカジキ鮪を突くのも上手だった。

やがて漁法も発達し、エンジンを含めて舟の性能も発達したためか、漁獲量も枯渇してきた。目先の効いた漁師は他県と同業とともに船を新造して日本海に遠征した。ところが李承晩ラインが設置されたため、追い返されて左前となり、その後は三陸沖の秋刀魚漁、伊豆七島沖の俗に「赤物」と呼ばれる魚を狙ったりと苦労をしたようだ。

磯の近くで小舟を躁って漁をする漁師も少なくなり、いつのまにか素人の客に釣りをさせる観光漁業と海藻の養殖を生業とするようになった。乗合船は魚群探知機を駆使して魚影を求める。漁場に着くと「はい、竿を下ろしてください」と言って客に釣りをさせる。一方、水産試験場から稚魚稚貝を頒けてもらって放流し、その成長を待って収穫する沿岸漁業に頼っている。ちなみに天然の鯛は口の近くの穴が片側二つあるが、養殖物はそれがどうしても一つになってしまうそうだ。また養殖の鮑の殻はどうしても青みがかかってしまうそうだ。魚屋で買うときに、その生い立ちが判るというものだ。

生まれが養殖物だからといってまけてもらうこともできまいが・・・。養殖の若布や昆布は春先に強風が吹くと収穫量が減る。最近では南風のあと、散策を兼ねて波打ち際に若布拾いを楽しむ人を見かけるようになった。

天然の海藻は硬いが、養殖物は軟らかく、ちかごろ養殖昆布に「早煮え昆布」などと名付けて販売している。西東三鬼の句に

秋の暮大魚の骨を海が引く

というのがあがるが、大魚も金輪際、浜辺に打ち上げられそうもなくなった。

(昭和38年工学部機械工学科卒業)

雑感 (顧みて、今思うこと)

古川 勝彦



①昭和36年4月入学と同時に、大学の裏山の高台の「宮面寮」へ入寮、寮生活は親元を離れ初めての経験でありました。先輩より厳しくまた思いやりのあるご指導を頂いた・・・この生活が、その後の生活指針に有意義に寄与していると確信しています。

②銀行員時代は、「日本一の良い銀行」を目指して、微力ながら努力しました。光陰矢の如し、結果は超タイトや苦いバブル等々経験した。

想い起こせば学生時代、専門は「金融論」の「山口茂ゼミナール」に所属し、山口教授の理論「市民社会的信用創造」つまり「信用創造の基本は何か」そこに「もの」と「かね」のバランスの重要性を学んだ。ゼミナリストに対しては、「今、国家予算における国債依存の思想、考えが生まれてきており一安易な国債発行の危機、懸念される」と警告力説されていた点、思い出される。

現在、670兆円超と推定される国債残高(日本は他の先進国に比較し、国内総生産(GDP)に対する国債の発行残高の割合が著しく高く、その持続性が議論となっている。ちなみに地方を含む日本全体の長期債務残高総額は1165兆円超)に増大した姿を見るに付け、果たしてどのような施策をとり、日本国の財政収支を改善し、財政の硬直化を打破し、将来に備える方向性を見出し、財政収支の安定化体制を構築していくのか見ものである。解決策が過去の歴史の徹を踏むのか、米国の戦略を模倣するのか、、、心配している。

最近、気になるのがスタグフレーション(経済活動の停滞一不況一と物価の持続的な上昇が共存する状態)出現、過去のインフレーションやデフレーションの歴史を振り返ると共に、埃の被ったアダムスミスの「国富論」やケインズの「一般理論」、ガルブレイズの「豊かな社会」、その他の古い蔵書を捲りながら、学生時代記入した赤鉛筆のラインを、時々目で追っております。

③後輩に一言～学生時代、社会人時代の「人脈ネットワーク」は大切な「宝」です。

情報を活かすセンスを身につけ、読んで字の如く「情」に「報」いて欲しい。自分の生き方にも、信念を持って取り組んで頂きたい。他人は見ています。また力となり助けてくれる財産にもなります。

最後に、「いつまでも青春」をキャッチフレーズに、「命ある限り」前向きに取り組む所存です。

(昭和40年経済学部経済学科卒業)

シンダイエキデンサイトに連載中の

小説『プラウドブルーの絆』をご存知ですか

塩塚 定雄



インターネットで、神奈川大学ホームページ⇒学内関連リンク⇒シンダイエキデンサイト⇒プラウドブルーの絆と順番にクリックをしてみてください  
山内美樹子著、神大エキデンチーム応援小説「プラウドブルーの絆」が連載中です。

作者の山内美樹子さんは、本学の法学部を昭和61年に卒業したミステリー作家。浮世絵師・鈴木春信にも描かれる、美女「お仙」を主人公に仕上げた時代小説「十六夜華泥棒」(光文社文庫)で第3回(2005年)東京都北区内田康夫ミステリー文学賞の審査員特別賞を受賞しました。都内のメディア広告制作会社に勤務しながら執筆活動を続けています。

連載中のこの小説は、駅伝仕掛けに章立てされており、「はじめに」、「1区 スタートライン」、「2区 光と影」、「3区 心のふるさと遠軽」、「4区 蒼き絆」、「5区 小田原北条恵の風」、「6区 函嶺洞門の誓い」、「7区 仲間を見守る虎御石」と現在進行中で、10区まで予定されています。

スタートラインは2006年1月2日、「第82回東京箱根間往復大学駅伝競走」往路のスタートから筆がすすめられます。

さて、ここに登場する主人公は、大矢夏美(おおやなつみ)。夏美には、神大駅伝チームに入り、将来はマラソンランナーになるのが夢であった双子の弟「翔(かける)」がいた。



その弟は高校生の時に交通事故に遭い、「大後。。。マジック。。。」と言う謎の言葉を残しこの世を去った。翔の無念を晴らすため、神奈川大学法学部に入学し、「危険運転致死傷罪」を勉強したい。また「大後。。。マジック。。。」という謎を解き明かしたいと、マネージャー見習となります。

その夏美を見守る神奈川大学陸上競技部駅伝チームの4年生で、大後監督や市川コーチ、部員達から、「池、池」と慕われ、信頼されている女子マネージャー『池永希子』のモデルをご存知でしょうか？本支部会員である『星野由希子』さんである。(監督、コーチは実名で登場)

星野さんは、平成17年法学部卒、横須賀在住で、湘南信用金庫にお勤め、我々の会にも、役員として参加していただいている。

夏美の叔母が経営する、喫茶「プライドブルー」のモデルをご存知だろうか？ 駅伝チーム御用達の「喫茶・食堂ソフト」(大学の通用門を下ってきた通りにある)である。

あくまでも、小説として描かれているが、レギュラー選手を支える控え選手のことや、裏方としてのマネージャーや監督のこと、日頃の練習や、毎年夏合宿が行われる北海道紋別郡えんがるちよう遠軽町の様子など、実によく描かれていて、駅伝ファンの作者、山内さんならではの作品になっています。よく取材されているな、と関心しました。

「戦国駅伝」と昨今言われる、熱き戦いの裏に、このようなエピソードがあったのかと、思わせる小説です。

まだ完結していません。あと8, 9, 10の3区間を残しています。今後どのように展開していくかが楽しみです。

それにしても、ホームページ上で、小説が連載されるとは、粋な大学ではありませんか。

新春開催される箱根駅伝の出場も、先日決定しました。是非一読をして、応援に馳せ参じてください。

(昭和48年第二経済学部貿易学科卒業)



## 郷里も神大も

内藤 正久



私の郷里は、広島県呉市です。昔は、旧日本海軍の基地として栄えた軍事都市です。今は江田島や戦艦大和の建造を記念して作られた大和ミュージアムで多少活性化していますが、典型的な地方都市です。

実家は旧市街地にあり、西側に海、3方を小高い山に囲まれた温暖で自然に

恵まれたところです。子供の頃は、街中にある二河川で魚や裏山の林で蝉取りと、どちらかといえば自由奔放に育ってきました。今の価値観や思考・行動力等は家庭環境とこのような環境がもとになっているようです。

郷里とは不思議なもので上京してまもなく、それまでプロ野球では大の巨人びいき(元名2塁手、広岡一朗氏の実家がすぐそばにあり、そのコネで巨人-広島戦の巨人側内野席で観戦できる機会もあり)でしたが、強烈な広島カープファンとなり、女房には嫌がられるのですが、今でも勝敗に一喜一憂しております。郷里広島には勝たせたい、勝ってもらいたいという強い思いが、野球という勝負の場面で表に出てくるのではないかと考えております。

同じようなことが、青春を謳歌し思い出深い、我が母校神大でもいえます。神大での学生生活は、もう一度やり直したくないほど充実しており、勉強はしませんが、特に卒業研究で恩師山本有孝先生に指導していただいたおかげで今の自分があるものと考えております。お世話になった方々や神大に恩返しをするために、母校の宮陵会活動にも積極的に参加しています。

その一環として、本年初めて1月3日に箱根駅伝の応援に保土ヶ谷駅そばの沿道と大手町、その後神大での選手を講える会に出席しました。ご承知のとおり、順位は昨年の16位より悪い17位、さらに襷までつながらない最悪の成績に終わってしまいました。

当然、選手を講える会では非常に悔しい思いのなかで開催されたはずですので、選手の励ましや指導者に対する叱責激励があるものと予想しておりましたが、大学関係者が不本意な成績と言いながら、達磨の目入れや監督

者への花束贈呈を行いました。

私は、長期低落傾向にある神大の駅伝に対して大学関係者の危機意識のなさがっかりすると同時に、そのような甘い学校に対して強い危機感を持ちました。

少子化による大学の厳しい現実と将来が語られている昨今、神大を全国に宣伝でき、かつ17万人の卒業生を団結させることができる箱根駅伝を生かしていきたくないと思えば、こんなに残念なことはありません。

神大を愛する者として、今までにも増して大学に純粋な意見をぶつけ、母校の繁栄・発展に少しでも貢献していく覚悟を決め、実行しているところです。

(昭和51年工学部機械工学科卒業)

### 会費納入のお願いについて

年会費未納の方お振込をお願いいたします。

郵便振替受入口座 00290-5-95815

宮陵会三浦半島支部

横浜銀行口座 久里浜支店

普通預金 1747984

宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部

代表 鈴木 稔

会費は年間3千円。4年前納は1万円です。

### ～ 編集後記 ～

宮陵会設立70周年記念式典を始め、ホームカミングデー、そして神大フェスタ(学園祭)の取材を兼ねて母校を訪問した。

しかしながら紙面ページ数の都合で、ホームカミングデー、神大フェスタは残念ながら掲載できなかった。12月に宮陵会の広報紙が発行されますのでご覧ください。

神大サッカー部が、関東大学リーグ2部で尚美学園大学に勝ち、初の1部リーグに昇格した。おめでとう。来季の活躍を期待したい。箱根駅伝まで後1か月、選手の皆さん風邪には十分注意してください。来年正月、沿道で応援いたします。(S)

## 支部年会費納入状況

(平成19年11月25日現在)

〔平成20年3月まで納入者〕

- (鎌倉) 小永井 潔 篠田 拓郎 川瀬 元夫  
岩崎 英昭 山岸 一輔
- (逗子) 山本 厚 石渡 浩
- (葉山) 中村 進 小池 邦夫 中川 六郎  
周藤 亜矢子
- (横須賀) 鈴木 昭利 島 久喜雄 沖 丞  
萩原 孝 角谷 彰 上原 章道  
石渡 敏夫 塚田 尚 中垣 正幸  
籠田 隆康 相原 充 南雲 忠男  
伊澤 隆雄 箕輪 義夫 加藤 麻貴子  
青山 隆一 鈴木 康介 二井 美恵子  
星野 由希子 鈴木 三郎

〔平成22年3月まで納入者〕

- (鎌倉) 小澤 光 石井 和行 若林 秀明  
北野 紘一 古川 勝彦 飯田 秀男
- (逗子) 岸本 光瑞 松本 育雄 千葉 毅一
- (葉山) 岩澤 正之 石渡 俊一
- (横須賀) 山内 元式 森 茂 八嶋 政臣  
中山 廣男 石井 一男 落 勝廣  
菊池 武 村田 龍也 結城 康雄  
長谷川征勝 金井 昌孝 熊澤 勝喜  
寺脇 敏彦 早川 勝繁 福島 康臣  
砂川 正夫 森下 守久 鈴木 稔  
野村 晴男 田中 久夫 嶋田 晃  
塩塚 定雄 舟崎 学志 内藤 正久  
清水 英樹 星山 正範 新藤 優  
工藤 真也

(三浦) 原 柳作 石渡 大湖

〔平成23年3月まで納入者〕

- (鎌倉) 矢澤 基一 (逗子) 長沢 良成
- (横須賀) 鳥海 洋義 松岡 和行

会費納入者 76名